

主な復興支援活動（2019.4.1～2020.3.31）

日 程	内 容
2019年4月～7月	宮城県南三陸の牡蠣を「食べて応援」する『南三陸サポーター倶楽部』募集を、足立センター、江戸川センターの2センターで取り組む
4月14日	「南三陸の魅力いっぱい～SC南三陸お料理教室～」を開催。29人（組合員18人、役職員5人、関係者6人）が参加
5月	2019年度 震災復興支援基金「パル未来花基金」より14グループに総額400万円を助成
5月18日	パル未来花カフェ～被災地・避難のいま、支援、応援をつづけるために～（2018年度「パル未来花基金」助成グループ報告会）を開催 41人（組合員7人、2018年度助成グループ23人、理事4人、役職員7人）が参加 講師 吉田千亜氏（フリーライター・子どもたちの健康と未来を守るプロジェクト）
7月1日	「パルシステム東京東日本大震災復興支援活動報告書2018『Pray for Japan』」を発行
9月23日～10月18日	「台風15号被害 緊急支援募金」を実施/パルシステムグループ全体で9,535万187円（うちパルシステム東京3,163万336円）が寄せられる
10月5日	「子どもの甲状腺検診キックオフ学習会『福島の実状とこれから～子どもたちを放射能から守るために～』」を開催 24人（組合員10人、員外4人、役職員10人）が参加 講師 藤田操氏（医師、たらちねクリニック院長）
10月21日～11月22日	「台風19号被害 緊急支援募金」を実施/パルシステムグループ全体で1億280万647円（うちパルシステム東京3,600万5,705円）が寄せられる
10月23日～11月5日 11月11日～15日	台風19号により甚大な被害を受けたりんごの産地「サン・ファーム」の支援のため、パルシステムグループ連帯での支援活動に参加/各日、役職員5人（10月31日は6人）を派遣
10月26日 10月27日 11月16日	「子どもの甲状腺検診」を実施。組合員・役職員・被災地からの避難者の子ども115人が参加 協力医師：藤田操氏、小野寺俊輔氏
10月～2020年3月	「原発事故被災者応援カンパ」をパルシステムグループ全体で実施、2,042万4,129円（内、パルシステム東京804万7,956円）が寄せられる 2012年度から取り組んできたパルシステム東京の「福島支援カンパ」も合流。パルシステム東京では、城南信用金庫ボランティア預金利息分200万円を合わせ、総額820万円を、放射能の影響から子どもたちを守る活動団体6団体に贈呈
11月1日～2日	「福島スタディツアー2019」を開催/31人（組合員19人、役職員9人、関係者3人）が参加
11月～2020年2月	センター独自企画で福島県楡葉町「わらじ組」の復興応援商品（布ぞうり）の材料になる「古Tシャツ」の寄付の呼びかけと販売に取り組む 古Tシャツ回収は5センター（昭島・足立・狛江・八王子・府中）、販売は2センター（狛江・八王子）
12月3日～2020年1月31日	福島県いわき市での「台風19号被災者支援ボランティア・プログラム」に参加/各日、役職員1人を派遣
1月4日～7日	認定NPO法人FoE Japan主催「福島ぼかぼかプロジェクト」視察兼保養ボランティアに役職員3名が参加
2月8日	「震災復興支援基金『パル未来花基金』2020年度助成活動申請説明会」を開催、9人が参加
2月8日 2月13日	「震災復興支援基金『パル未来花基金』2019年度会計・活動報告説明会」を開催、延べ17人が参加
2月8日	福島県楡葉町「わらじ組」交流・視察研修を実施。八王子・狛江センター職員・社員24人で現地を訪問
2月15日	「地元消防士が初めて語る、福島原発事故」『孤塁 消防士たちの3.11 刊行記念トークイベント（主催：岩波書店/後援：パルシステム東京）を開催。250人（岩波書店発表）が参加 講師 吉田千亜氏（フリーライター・子どもたちの健康と未来を守るプロジェクト）、元双葉消防本部職員
2月29日	～3.11を忘れない～「新地町の漁師たち」映画上映&トークを開催 65人（組合員29人、員外16人、役職員20人）が参加 講師 山田徹氏（監督）、小野春雄氏（漁師） ※新型コロナウイルス感染症の影響で、規模を縮小して開催

◆3月パルシステム福島親子交流企画は新型コロナウイルス感染症の影響で中止となりました。

その他、パルシステムグループ全体でも、食品における放射能検査や、FITでんき（再生可能エネルギー）を中心とした「パルシステムでんき」の推進など、組合員の声に応えた取り組みを進めています。

東日本大震災支援活動ブログ
Pray for Japan



パルシステム東京の東日本大震災支援活動ブログでは、2011年3月からの復興支援活動を紹介しています。
パルシステム東京ホームページ（<https://www.palsystem-tokyo.coop>）より



発行日：2020年7月22日 発行：生活協同組合パルシステム東京

Pray for Japan

パルシステム東京
東日本大震災復興支援活動報告書2019

パルシステム東京は、「3.11を忘れない」を基本視点に、東日本大震災被災者支援を組合員とともに取り組んできました。2019年度の活動をご紹介します。



あれから9年、忘れてはいけないこと 「福島スタディツアー2019」

2019 11/1（金）～2（土）

パルシステム東京では、東日本大震災発生後2013年度から福島スタディツアーを実施しています。いまだ帰宅困難区域もあり、復興しているとはいえない現状をみてきました。

2019年度も「3.11を忘れない」との思いを大切に、組合員、支援団体とともに被災地・被災者に寄り添った多くの支援活動に取り組みました。そのひとつである「福島スタディツアー2019」では、東日本大震災から9年が経過した被災地を組合員と一緒に訪れました。帰宅困難区域やバリケードが散見する地域もあり、「まだ、時は止まっている」との光景を目のあたりにしました。いかに原発事故が危険なものか、9年経過した今でも取り戻せていない現実がありました。今一度、「3.11を忘れない」から「3.11を忘れてはいけない」との強い思いが込み上げてきました。これからも、組合員、支援団体と力を合わせ復興支援活動に取り組んでいきます。離れていても、できることはあります。



生活協同組合パルシステム東京 専務理事
杉原 学

1日目 富岡町／浪江町を訪れ、被災地の「今」を知る



震災後時が止まっている6号線の風景。富岡町から浪江町に向かうバスの車窓から



浪江町の請戸地区に建立する東日本大震災慰霊碑を訪ねる



原発事故後に、福島市へ避難。2014年から「浪江まち物語つたえ隊」として、自らの体験を紙芝居で伝える岡洋子さん。（左写真中央）浪江町に残された自宅倉庫を改装した交流の場「OCAFE（オカフェ）」にて



2日目 持続可能なエネルギーを生み出す現場を見学！



温泉郷で地熱を利用した発電設備を見学。土湯温泉地熱パイナリー発電（元気アップつちゆ）



ソーラーパネルと大豆畑。作物を育てながら発電するソーラーシェアリングへの生産者の思いを共有しました（二本松有機農業研究会）

被災地・被災者に寄り添った復興支援活動を推進します。

私たちができること「学び・行動する」！



「3.11を忘れない」シンポジウムを毎年開催

2019年度は、東日本大震災後の福島県新地町の漁師たちを追ったドキュメンタリー映画「新地町の漁師たち」を上映。上映後、監督の山田徹氏と漁師の小野春雄氏とのトークでは、被災した漁師たちが抱える切実な問題や福島の現状が共有されました。



© Toru Yamada2020



トーク中の小野 春雄氏と山田 徹 監督



新地町の浜祭り「安波祭（あんばまつり）」の写真とともに

「子どもの甲状腺検診」の取り組みを継続

東京電力福島第一原発事故以降、組合員から都内での放射能被ばくへの不安の声が寄せられました。その声に応え、組合員と福島から東京に避難する子どもを対象に甲状腺検診を実施・継続しています。「認定NPO法人いわき放射能市民測定室たらちね」の協力を得て、事前学習会を10/5開催し、検診は、10/26・27、11/16に実施しました。



布ぞうり（narahato）

布ぞうりで被災地とつながる！

2017年度福島スタディツアーで訪問した檜葉町の「わらじ組」との交流支援が続いています。センターでの布ぞうりの材料になる古Tシャツの回収や布ぞうりの販売支援につながっています。

2019年度取り組みセンター

古Tシャツ寄付回収	足立・昭島・狛江・八王子・府中
布ぞうり販売	狛江・八王子



おいしい牡蠣を食べて南三陸を応援しよう！

東日本大震災の津波被害は、宮城県南三陸町に甚大な被害をもたらしました。漁業関係者も大きなダメージを受けましたが、人と人とのつながりを通じて、南三陸町の農畜水産業者とパルシステムグループとの地域再生に取り組みしました。2019年度は足立・江戸川センター限定企画で、「戸倉っ子牡蠣」SC南三陸サポーター募集に取り組み、147人の登録がありました。

※ 2020年度は全センターでの取り組みを行います。



「戸倉っ子牡蠣」生産者 繁栄丸 菅原 幹生氏

震災復興支援基金「パル未来花基金」

助成実績（2014年～2019年度）延べ88グループ、2,222万6,710円

震災から9年が経った今も支援活動を継続している組合員がいます。「パル未来花基金」は、組合員による復興支援活動を資金面で応援する基金です。2019年度は、福島の子ども保養や被災地でのコミュニティ支援に取り組む14グループに計400万円を助成しました。



はちみつ会：親子保養企画外遊びの様子



星つむぎの村：被災地支援ドーム型プラネタリウムの前で

組合員がカンパで応援！

2019年度カンパ実績：パルシステムグループ（全体）2,042万4,129円
パルシステム東京 804万7,956円

原発事故被災者を対象とした保養や避難者支援を行う団体を応援するため、パルシステムグループ全体で「原発事故被災者応援カンパ」（東京電力福島第一原子力発電所事故被災者応援金）を2019年10月～2020年3月末まで実施しました。2012年度から取り組んできたパルシステム東京の「福島支援カンパ」もこれに合流しました。カンパ金は、原発事故被災者の保養や避難者を支援している団体、会員生協主催の保養企画など、全23団体へ1,820万3,655円を配分しました。このうち、パルシステム東京が推薦した6団体へ計820万円を贈呈しました。

2019年度パルシステム東京推薦団体

団体名	贈呈額
認定NPO法人いわき放射能市民測定室たらちね	1,950,000円
認定NPO法人沖縄・珠美の里	1,750,000円
NPO法人ふようど2100	1,350,000円
NPO法人ハートフルハート未来を育む会	1,350,000円
認定NPO法人FoE Japan	1,000,000円
一般社団法人子どもたちの健康と未来を守るプロジェクト	800,000円
合 計	8,200,000円

※城南信用金庫に預けている「ボランティア預金」の利息分200万円も上記6団体に分配・贈呈しています。